

2015年  
変の革  
のトキ  
トプランナーに聞く

2014年は、ミキハウス子育て総研（本社・大阪市北区）の「ウェルカムベビーの結婚式場」認定が一気に拡大した一年であった。大手企業アニヴェルセル全店舗での認定を始め、4月の7会場から年末には29にまで拡大した。関連団体でのプランナー養成など、パパママ・キッズ婚需要の掘り起こしに、今年も注目だ。

## 住宅分野で行政と協定 子育てに優しい街作り

### 結婚市場のソフト面のサポート プランナー養成講座をスタート

——昨年、マイナビウエディングとの提携による、パパママ・キッズ婚の普及も一気に加速しました。アニヴェルセルの全店舗認定、また事務所の移転など、話題に溢れた一年だったかと。

「パパママ・キッズ婚の潜在需要は、毎年20万組前後積み上がっているとのデータもあります。この結婚式を挙げるのは、子供が0～3歳のケースが多く、単純に80万組の潜在需要があるわけです。当社は、ミキハウスの店舗や小児科で配布する情報誌「ハッピーノート」を発行しており、またママたちのポータルサイトも運営しています。その点、この層にダイレクトに訴求することが出来ます。そうしたことから、マイナビさんとの提携も実現したほか、各認定会場からの期待を頂いたと考えています。大切なのは、消極的だったファミリーにきっかけを与えることです。」

——結婚式以外に、ホテルや住宅の認定制度も行っています。

「子育て支援に対するネットワークの拡大は感じています。住宅では、静岡県と協定を結び、地域で子育ての住宅認定を進めています。自治体が、子育て住宅を計画する際に、私たちのノウハウを活用してもらっています。また当社としても、教育事業では「お受験コース」を設置したり、リフォームや賃貸住宅の認定事業を強化するなど、昨年は枠組みを作った1年でもありました。子育てファミリーに対する、暮らしや教育、レジャーの選択肢の提供が、これまで以上に拡大しています。結婚式場も、その一環だと考えています。」

——現在でも、10件ほどの結婚式場認定依頼が舞い込んでいますか。

「パパママ・キッズ婚の需要掘り起こしはもちろん、子供連れの参列を呼び掛けることで列席者増にもなります。認定会場が、認定マークをゼクシィなどの紙面に掲載することで、子供連れでも安心感を与えられます。だか



ミキハウス子育て総研  
代表取締役社長  
藤原洋氏

- キーワード
- ①ウェルカムベビーの結婚式場は、昨年29件に達する。100件を目指していく。
  - ②子育て支援のネットワークを構築。住宅、宿泊との連携も進めていく。
  - ③ソフト面でのサポートになる、パパママ・キッズ婚プランナー認定制度の普及。

らこそ認定に対して、積極的な声が増えていますが、出来れば今年中には100件を超えることが出来ればと思っています。」

——プランナー育成制度も昨年から始めました。

「認定は、ハードが基準になります。それに対して、ソフト面でのサポートも出来るようにと、関連団体でパパママ・キッズ婚プランナー養成講座を開始しました。認定施設に対しては、子供連れのママたちの期待感もあります。いざ会場に行った際にギャップがないように。ハードとソフト両面での対応を進めていきます。認定プランナーが在籍しているということでママ達の安心感にもつながり、同時にハードの整備も積極的に対応してくれるはずですよ。」

——今後は、子育てに対する総合的な仕組み作りも進みそうですね。

「住宅分野での行政との連携は、子育てに魅力的な街づくり、地域づくりが目的です。住宅のみならず、宿泊施設や結婚式場など、総合的な対応は今後ますます促進するでしょう。」